

上原賞受賞者

(五十音順)



受賞者氏名：吉村 昭彦 (ヨシムラ アキヒコ) 理学博士

所属機関および役職：慶應義塾大学 医学部 教授

生年月日 1958年12月12日生

略 歴 1981年3月 京都大学理学部 卒業
1983年3月 京都大学大学院理学研究科 修士課程修了
1985年6月 京都大学大学院理学研究科 博士課程中退
1985年7月 大分医科大学生化学教室 助手
1986年3月 理学博士 (京都大学) (論理博第942号)
1987年9月 鹿児島大学医学部腫瘍研究施設 助手
1989年6月 鹿児島大学医学部腫瘍研究施設 助教授
1995年6月 久留米大学分子生命科学研究所 教授
2001年1月 九州大学生体防御医学研究所 教授
2008年4月 慶應義塾大学医学部微生物学免疫学教室 教授

受賞対象となった研究業績

「サイトカイン応答を制御する分子機構の発見とその病態解明」

炎症反応の分子機構の解明は、医学・生命科学の重要な課題の一つである。分子レベルから個体レベルまで幅広く免疫制御の分子細胞機構の研究を展開する中で、JAK/STAT 経路の抑制因子 CIS/SOCS ファミリーを発見し、サイトカインシグナル調節に負の調節機構が存在することを世界で初めて示すとともに、炎症やアレルギー、自己免疫疾患、腫瘍免疫などにおいて重要な役割を果たしていることを明らかにした。さらに、もう一つのサイトカインシグナル経路である Ras/ERK 経路においても抑制因子 SPRED ファミリーを発見し、造血、免疫、神経系で重要な役割を果たしていることを示した。特筆すべきは、ヒト SPRED1 が神経繊維芽腫症 I 型に類似した疾患 (Legius 症候群) の原因遺伝子であることを発見したことである。このように、負の制御を中心に複雑な免疫応答や病態を分子レベルで解き明かし、炎症性疾患の病態解明を飛躍的に発展させた、世界を先導する独創性の高い研究業績である。